

随想

アメリカ製品は……

日本より雑に見えても劣るとは限らないアメリカの技術力

(株)P P Q C 研究所 加藤 宏光

ジャパン・アズ・ナンバーワンと、日本の経済力が世界で謳われたのは今から二五年近くも前のことになろうか？ ダイエーがハワイのアラモワナショッピングセンターを買収し、ソニーがアメリカのハートともいわれるコロナビア映画の株を買

実質オーナーシップを持ったり、世界の経済を席卷する勢いであつた。それから間もなくバブル経済の破裂を経て、あつという間に日本経済は一、〇〇〇兆円を超える公的債務を抱えた。

二〇年近い雌伏を経て、アベノミクスで経済の展開が上向いて以来、市場にも明るい陽が差し始めたように感じられる。反日運動で中国と連携している韓国はつい二三年前まで日本の

家電メーカーを凌ぐような伸びを示していた。しかしそれは作意的なウオン安と日本から引き抜いた技術者を使い捨てにしな

ら得たノウハウの模倣によるもので、円が対ドルで八〇円余りから一〇〇円台前半に安定しただけで息切れしている。

アベノミクスによる円の増刷と公共事業等による円安誘導で急速に日本経済が立ち直りの傾向を示し(これには東日本大震災の復興需要も含まれる)、日本全体に明るい兆しが見える

と、何となく日本人にかつての自信が蘇ってきた(一方で、韓国経済は相当のダメージを受けているようである。韓国のGDPは約七〇%が輸出に依存し、さらにそのGDPの半分以上が

サムソン、ヒュンダイ、ロツテ等の財閥の売上げに依存しているという。それゆえ、これら巨大企業のうちの一家の命運に国の経済が左右される)。

先般、和食が世界文化遺産に指定された。わが産業の卵や鶏肉においても、素材の味・質共に世界で類を見ない繊細さを当たり前としていた。衰えたりといえども世界をリードする役割を果たしているアメリカの製品と日本の製品(食品はもちろん自動車などを含めて)を対比する時、品質のレベルでわが国の製品に大きく軍配を上げたく

日本のマンガ文化がアジアだけでなくヨーロッパの国々に浸透していることを踏まえて「うん、日本は大したもんだ！」と思えてしまう(ちなみに四年前にオルニト・バクテリウムの調査にデンマーク国立コペンハーゲン大学の獣医学部微生物学研究室のポヤーセン博士を訪ねた折

に、ホームパーティーに招かれた。博士には三十四歳の三人のお嬢さんがいたが、長女、次女共に日本のマンガにはまっていたものである)。

一方アメリカを旅する時、スーパー等で目にする商品のキメの荒さにあきれることが多い。その乱暴さは商品に限らず、包装等にも表れている。Tシャツやスカーフ等を購入すると、そ

の商品を乱暴に折りたたんで、乱暴に紙に包んで、乱暴に紙袋へ押し込んで、ニッコリして手渡す。「ギフト用に」と指示しても、リボンが掛かっているだけである。日本ではスーパードもこんなに雑な扱いはすまい。

アメリカではどの州でスーパーに立ち寄っても、野菜や果物等は価格こそ安い、並んでいるものは日本では格外として廃棄されるような品質のモノである（最近では日本でも格外品を捨てることなく格安で販売するケースもあるが、こうした商品は別ルートで流通している）。このような「安かろう、悪かろう」の傾向はイギリスやフランス等の欧州、韓国・中国、東南アジアの国々でも同様である。わが国と外国の生鮮品や家電品自動車等の格差を実感すると「わが国の基本的な生産能力が他国に勝っている」と感じてしまう。

しかし、日本の技術が優れ、外国の生産技術が雑に見えるからといって、それが日本よりすべて劣ると即断してはまずい。

先日、皆でハワイへ出かけたが、その時にメイド・イン・USAのプロポリス入りせっけんセットが紹介された。うたい文句では「美肌効果、抗アレルギー効果や痒・染みを消す効果」があるという。半信半疑で愚妻が土産として幾セットかを購入した。著者はせっけん等でこのような漠然とした効果が得られるという話に引き寄せられることはない。高校生であった昔に、母親がどこで聞いたか「ニキビ液剤を買ってきてくれた。ただニキビを治したい一念で、入浴時・洗顔時に逆性せっけんを使用した。今にして思えば、逆性せっけんの殺菌効果が間接的にニキビに多少良かったに過ぎない。しかし、十七歳の著者はニキビに効くから濃ければそれだけ効くに違いない、と考えた。ほとんど原液の逆性せっけん液で顔を洗うという、乱暴をしぱらく続けてしまった。かくして一週間も過ぎた頃、ニキビが治

るところか、顔の皮膚がポロポロとはがれ始めた。逆性せっけんは通常一、〇〇〇〜二、〇〇〇倍で殺菌効果は十分。ほとんど原液で洗顔では皮膚もたまつたものではない。慌てて使用を止めたものの、ポロポロの皮膚は（ニキビはそのまま）半年を経てもなかなか戻らなかった。

自分のミスとはいえ、この失敗はトラウマになっているのだろう。それに加えて何かに付け雑なアメリカ製となれば、著者の「ホントかな？」という疑惑は相当なものであった。帰国後は早速このプロポリスせっけんを試してみた。それから二週間以上も経った頃、妻が「このせっけんいいみたい！」と言いはじめた。手の甲にできた痣が消え始めたようだ。しばらく続けて使用しているうちに、一週間程で皮膚の表面がザラザラになり、痒くなってきた、のだからである。表面が少しづつはがれ落ちて、心なしか痣が薄くなってきたというのである。

体験談を聞かされて、著者も

心を動かされた。それから使用を続けているが、局所的なアレルギー性皮膚炎が少しづつ軽くなっているように感じる。少なくともキメの細かさや使い勝手の良さは、一個数千円の国産高級品に優るとも劣らない（ちなみにメイド・イン・USAのこのせっけんは一個五〇〇円）。

せっけんの宣伝をするつもりはないが、短絡的な判断を控えることの重要さをこの時に改めて教えられた。

注：プロポリスは蜜蜂が営巣し卵を産み付けた子供を守るために巣穴の入口部分に塗り付ける物質。強力な殺菌作用を有すると共に、抗ガン効果や肝臓障害を防御・治癒させる等さまざまな効果が確認されている。国産、ブラジル産等生産国によって効果の違いがある、とされる。例えばブラジル産のプロポリスは抗がん効果、肝硬変の予防や治癒効果に優れている。プロポリスは水に溶けないため、巢穴を純エタノールで抽出する。